

## 聖家族の祝日の説教

金 大烈 神父 2010年12月26日(日)

### 《聖家族》

主の平和！

今日の福音を読むとこの世の中でイエス様が使命を果たす為には何よりも家族の存在が大きく、家族が守ったからイエス様の救いの事業が上手く成し遂げられたと考えられます。

今日はいつもと違うスタイルで説教を進めたいと思います。目を閉じて頂きます。

最初にご両親の事を思い浮べて下さい。生きておられるか、亡くなっていらっしゃるかは関係ありません。先に父親の事を思い浮べて下さい。お父さんは自分にとってどのような父親だったでしょうか？顔が浮かびますね、そのお父さんをどのような気持ちで思い出しているのでしょうか。素晴らしい父親でしたか、それとも自分にとってあまり良く無い父親でしたか。それは本人以外にはわかりません。しかし私達は自分の父親が生きていても亡くなくても絆は永遠につながっています。愛していると言えますか？それとも憎む心がありますか？一つだけ考えていただきます。父親のやり方、いろんな子供に対する心の表わし方は、少なくとも父親なりの愛の表現である事を強く信じましょう。

それでは、お母さんの事を思い浮べて下さい。皆様にとってお母さんとは、どのような存在だったのでしょうか？もしかしたらこちらにいる皆様の内には母親の顔さえ知らない人もいるかもしれません。皆様のお母さんはどのような事をして下さったのでしょうか。私達の故郷はお母さんです。そのお母さんによって私達は生まれて来たのです。自分のお母さんを愛していると言えますか。「慕います」という気持ちで生きているのでしょうか。自分のお母さんの為に祈る気持ちはいつもありますか。実際に祈っていますか。皆様、親の為に毎日祈って下さい。生きている方なら最善を尽くして自分の愛情を表現して下さい。子供として一番辛いことは十分愛さなかった親を見送る事です。

次は配偶者(ご主人・奥さん)の事を思い浮べて下さい。初めて出会ったその時を思い出して下さい。そしていままで共に過ごした日々を思い浮べて下さい。いろいろな事があったと思います。憎らしくてたまらない事や、相手の考えが見えなくて不安に陥った事もあると思います。本当に悪かった、助かった、この人で良かったと思った事もあるでしょう。今はどうでしょう、鈍くなってしまった自分の心を認めていますか？同伴者として受け入れているだけではないでしょうか？気持ちを取り戻しましょう。この世の中で自分が死を迎えた時に泣いてくれるのはこの人だけだと意識しましょう。何よりも、自分の愛する子供の素<sup>もと</sup>である事を意識するようにお願いいたします。お互いに奥さん、そして御主人の為に毎日祈って下さい。

子供の事を、一人一人を思い浮べて下さい。長男長女、次男男次女、その下のお子さんたちも全て思い浮べて下さい。私達親がこの子供達に何を伝えたか考えてみましょう。自分なりに愛しそしていつも心配するのは子供達の事だけだと思いながら、本当に子供達に必要な物を与えて来たのか振り

返ってみましょう。子供たちの為に毎日祈っていますか？ 皆様一人一人の子供に対していろいろな心配な事があると思います。毎日心配して悩む事は子供に対しての愛の表れです。それを重荷として思わず、喜んで心配して下さい。自分の子供の為に親は命も捧げられるでしょう。曖昧な感情を超えて子供達が具体的な人生をきちんと歩めるように毎日祈りの中で願いましょう。人間的に自分の足りない所で支えるより全知全能の神様の助けを求める心が必要です。教会から離れ、彷徨<sup>さまよ</sup>っている子供達もいます。結婚していたらその相手の事で悩んだり、経済的な事で困っている子供達もいると思います。病気で苦しんでいる子供もいると思います。しかし親の大きな祈りが続く限りには、子供はしっかり立ち上がる事が出来るでしょう。

兄弟の事を思い浮べて下さい。結婚してから他人の様な付き合いになっていないでしょうか？ 経済の事で遠くなってしまった事は無いでしょうか？ 結婚していたらその兄弟の相手の為に自分達の間が以前と変わってしまい崩れていないでしょうか？ 神様が作って下さった絆です。兄弟姉妹の為に祈って下さい。自分が損をしても、兄弟が幸せな道を歩む事が出来ていれば自分も幸せと感じて下さい。兄弟間の関係が上手くいく事が親に出来る大きなプレゼントです。少なくとも憎まないで下さい。憎む事より心配して下さい。

目を開けて下さい。短い時間でしたが皆様いろいろな想いが浮かんで来たと思います。今日は聖家族の祝日です。これは人間の意志によって作ることのできる絆ではありません。神様からの贈り物です。その贈り物に対して私達はどの位忠実になっているか考えて見て下さい。自宅に帰ってからもう一度何よりも自分の家族の為に最善を尽くす事が神様の御心に一番叶う事だと意識しましょう。そのような考えになれば祈る事に一日あっても足りません。私は考えて見ると祈りを求めている人をあげたら一日有っても足りません。簡単に言いますと、皆様一人一人の為に祈ろうとすると大変な時間が必要です。しかしそのような気持ちになったら上手く生きている証拠です。誰かが私の為に祈ってくれている、自分も祈る相手がいる。それが一つの人生の楽しさではありませんか。そういう気持ちでもう一度尊い家族の絆を確認し深めて、もし間違えに気付いたら自らやり直そうとするその恵みを神様に願いましょう。

ありがとうございました。